

A41

ベトナム・ハノイの近代集合住宅の改善計画
チュントゥ団地内の交通・駐輪の状況と戶外空間の利用実態について
Project for Rehabilitation of Modern Collective Housing in Hanoi, Vietnam
Traffic Situation and Various Activities in Outdoor Spaces of the Trung Tu District

山田 幸正 (助教授)
藤江 創 (COEリサーチフェロー)
Yukimasa YAMADA (Associate Professor)
So FUJIE (COE Research Fellow)

西田 司 (助手)
チャン テイクエハ (COE協力者)
Osamu NISHIDA (Research Associate)
TRAN Thi Que Ha (COE Collaborator)

ABSTRACT

In August 2005, we made a field survey on the traffic situation including parking spaces for motorcycles and the actual state of various activities observed in outdoor spaces in the *Trung Tu* District, *Hanoi* city, in collaboration with a research group of Hanoi Architectural University. This paper refers to the preliminary findings from this survey. The following critical issues will be pointed out; how we control the motorcycle's traffic to harmonize with the daily urban life and how we evaluate the outdoor spaces for various activities, commercial activities in particular, which are stemmed from indigenous Vietnamese lifestyle.

キーワード: 団地、交通、駐輪、商業的活動、屋台
Keywords: Housing Estate, Circulation, Parking Spaces, Commercial Activities, Stall

1. はじめに

本研究プロジェクトは、ベトナムの首都ハノイのチュントゥ地区に1970年代に建設された公的集合住宅団地を対象に、ハノイ建築大学の協力を得ながら、激変しつつある居住環境の実態や住民の志向・要望などについて現地調査を行ない、それを踏まえて団地改善のあり方とその手法を検討している。2004年度のチュントゥ団地およびキムリエン団地における住戸内調査に引き続き、2005年8月にチュントゥ団地の外部環境に関する実態調査を実施したので、ここではその概要について報告したい。

2. 2005年度調査の概要

2005年8月の調査では、これまでと同様、ハノイ建築大学を通じて、現地関係当局などとの事前調整を経たうえで、団地内の交通量および駐輪の実態に関する調査、戶外空間での諸活動に関する調査に加えて、団地内に立地する保育園、幼稚園、小学校、高等学校の変遷と現状に関する調査、団地建設に直接携わった技術者などに対するヒアリング調査などが実施された。

2-1. 交通量および駐輪に関する実態調査 日中、団地に入出入する二輪と自動車の大きな交通量を把握すること、さらに団地内でどのくらいの量のバイクがどのように駐輪されているのかの実態をつかむための調査を実施した。前者の調査は、団地内の主要な交差点2ヶ所において、二輪(バイク・自転車)と自動車それぞれについて、進行方向別に目視で行った。8/6(土)と8/8(月)に朝・昼・夕の3回

ずつ計6回行なった。後者の調査は、8/6(土)午後と8/8(月)早朝の2回、駐輪されている場所とその台数を、配置図上に記入していく方法で行なわれた。

2-2. 戶外での活動実態に関する調査 まず、人々の戶外での活動に直接的に関連するものとして、日陰をつくる樹木、仮設的な屋根(ビニールシートやパラソルなど)、増築部分などについてそれらの団地内における分布状況の把握を行なった。それらとの関わりに留意しながら、住棟間、公園・空き地、道路の歩道、路地などの空間でどのような活動がみられるかを、一日における時間帯ごとの使われ方の違いなどを考慮して、午前(8/8)と午後(8/6)の2回、観察調査を実施した。

3. 2005年度調査の主な成果

3-1. 交通量調査 まず注目すべきは、団地内を通行するバイクの圧倒的な数である。今回、団地全体の交通量を完全に把握できたわけではないが、朝方のピーク時には15分間で500台を超えるバイクが団地を通り抜けていることがわかった。大半のバイクは2人ないしそれ以上の乗員が乗り、日常の移動手段として不可欠なものになっている。バイクの特性もあって、団地内の狭い街路も非常に多く利用され、表通りの交通渋滞を避けた通り抜けもかなりの量に及んでいる。近年急激に自転車にとって代わったバイクは多くの深刻な社会問題を顕在化させているが、反面、極めて有効な移動手段として機能していることも事実である。

今のところ自動車の数はどの地点でも極めて少ない。た

だ、これだけの二輪の交通量のなかでは、車は常に周囲を混乱させる原因となっていて、そのため、現状では車はスピードを出して団地内を通行することができず、また車による通り抜けはさほど見られないようである。

3-2. 駐輪状況調査 通り沿いの店舗の前には客のバイクが数多く置かれ、歩道のかかなりの面積を占拠している。ただ、バイクのための専従の従業員がいる場合が多く、おおむねきちんと整理・管理されている。とくに団地北側、道路を隔てて湖を臨み緑豊かな木々が立ち並ぶ広いオープンスペースでは、多くの客のバイクが連続するカフェの間に整然と並べられていた。バイクの配列は木立のなかで各店舗の領域を区画し、また各店舗の集客状況を一目でわからせてくれている。バイクの数は朝よりも昼のほうが多く、倍近くにもなる。また正確な数の把握はできなかったが、夜はさらに多くのバイクが集まっていた。そうしたなかでもまったく混乱した様は見られなかった。

団地南側の住棟間の空間では、木立はあるものの、床舗装が壊れているところが多く、午後におけるバイクの管理はあまりよくない。一方、東側住棟間では、車止めとなる低い柵が設けられるなど整備・改修の手が加えられ、駐輪するバイクは少なく、しっかりと管理されていた。

3-3. 戶外空間での活動に関する調査 住棟間をはじめ、公園や街路沿いの歩道、路地など様々に形態や条件の異なる戶外空間のほとんどが活発に利用されている様子を観察することができた。そのような様々な利用実態のなかでも、とくに注目されたのは各種の商業的な活動であった。

団地内のほとんどの場所で、軽食・デザートなどの屋台、服飾関係、バイク修理、生鮮食品・生活雑貨の露天商、床屋、宝くじ売りなど様々な種類の商行為がみられる。それらの商業活動を消費者・利用者の動きからみると、同じ場所に比較的長く留まるものから、道を通りながら行なうものまで多岐にわたる。前者の例では、ビニールシートをかけた仮設屋根や植栽の下に日射を避けながら、軽い小さなテーブルやイスを必要に応じて出して用いる屋台や、植栽や道沿いの壁・塀に鏡をかけて行う床屋などの商行為がみられる。後者の例では、天秤かごに入れて野菜や果物、精肉、生花、雑貨など行商する露天商がある。とくに表通りに近い狭い路地の使われ方はとても興味深い。日中午後には人通りも少なく何もない路地が、早朝から午前中にかけてだけ、さまざまな種類の生鮮食品の露店が並び、大勢の人々で賑わいをみせている。幅の狭さがちょうど都合が良いのであろう、建物の壁や塀を利用してビニールシートで道を覆うように日除けがかけられている。もちろん、車やバイクはまったく入ることはできない。買い物客は安全に、かつ商品を見て歩くのにちょうど良い幅でもあり、日除け屋根がかかった場所を人々が行きかう様子はまるで一種の

マーケットのようである。このように流動・仮設的な商業活動のための空間が日常的に営まれている様子は、我が国の団地には見られない特徴的な風景といえる。

4. まとめ

以上のような調査から、まず、現状においてバイクは日常の移動手段として不可欠なものとなっている。近年急速に自転車からバイクに移行したことによって、安全面や環境面で大きな懸念が生じていることも事実だが、相当の混雑はあっても大きな混乱はまだ起きていない。バイク駐輪についても今のところ極端な破綻はみられず、微妙なバランスのうえでなんとかバイクとの「共存」がなされている。ただ、ここにきて自動車が増加しつつあり、本質的な変化が生じる可能性がある。今後、団地住民の生活や活動においてバイクや車をどのように位置づけていくかは、都心部となりつつある当該団地では極めて重大な課題となろう。

また、団地内の戶外空間ではあらゆる場所を利用して、さまざまな商業活動が活発に営まれている。なかでも「食」に関する商行為がその中心を占めており、食材などを手軽に調達し、外の日陰などで外食をすませている実態が目立っており、団地内の空地が住宅環境の保全・保持のためだけでなく、ここを訪れる人々や住民の活動や憩いの場となっていることが読み取ることができた。その際、日射を避けるための装置は不可欠であり、大きな庇や植栽だけでなく、ビニールシートやパラソルなどの仮設的なものが上手に利用されている。同じ空間でも時間によって使われ方が異なることや、商業活動に使われている日除け屋根や家具などが簡易で仮設的なものが多いことなど、現状において、ある種フレキシブルに戶外空間が利用されている実態が顕著である。団地内で住民の生活と密接に関わりながら、これほど活発に営まれている商業活動は、ベトナム特有の集住様式が生み出したものといえ、こうした戶外空間の質を今後、どのように評価していくかが問題であり、それを残しながら活かしていく団地計画のあり方が模索されなければならないと考えられる。

5. 補足：現地調査以外のおもな成果

2005年度における成果には、これまで報告してきた現地調査のほかにも、以下のようなものが含まれる。

- ① 04年度に入手したベトナムにおける集合住宅団地や住宅政策などに関する既往研究15件について、ベトナム語からの翻訳を進めており、一部（12件）についてはその解題を行なった。
- ② チュントウ団地で70の住戸に対する個別調査をハノイ建築大学に業務委託し、その調査結果は04年度の調査内容に準じた調査票として、すでに納品されている。